

我聞 如是

「かくの如く我聞けり」

場所文化フォーラム 代表幹事

吉澤 保幸

よしざわ・やすゆき

1955年生まれ。東京大学法学部卒。78年日本銀行に入行し、98年退行。2001年びあに入社、02年取締役。08年6月より同社顧問。税理士。LLP場所文化機構副代表。NPO法人ものづくり生命文明機構の地域活性化協議会・事務局長も担う。

持続可能な地域づくりの金融

「今年7月、洞爺湖サミットが開催

された直後に同じ北海道の帯広市で『とかちローカルサミット』を開きました。産官学等各界から地域づくりに関わっている約200人が全国から集まりました。『持続可能な地域』をキーワードに『金融』『食』など6つのテーマについて議論し、ローカルサミット宣言をとりまとめました。任意団体『場所文化フォーラム』も主催者の一つでした」

「2003年に立ち上げた『場所文化フォーラム』は、自然、歴史、言葉、食、生活様式などの面から地方

が保有する場所の価値（場所文化）を再認識することを手助けし、補助金に頼らなくても地方で資金がしつかり循環していくような仕組みを構築することを目的としています。その一つのプロジェクトとして07年、東京・丸

の内にレストラン『とかちの…』をオープンさせました。顔の見える人が生産した十勝地方の安心で安全な肉や野菜などを食材にし、お酒もフォーラムとつながりのある地域のワインや焼酎を提供しています」

「フォーラムのメンバーらがLLC（合同会社、場所文化ファンド、資本金2850万円）を設立し、『とかちの…』に出資。店の事業収益はLLCに貯め、十勝以外の他地域の活性化にも再投資可能です。配当は金銭ではなく、食事券などの現物を提供。金儲けするのが狙いではありません。『川下』にいる都会の人が出資し、それが命を紡ぐ農業など『川上』の繁栄に繋がることが目的です。出資金を『志金』と呼んでいます。志あるお金が地域で循環してほしいと思っつけた呼び名です」

「こうした活動に関わるようになったのは、グローバル資本主義の席卷によって我々の生活がお金に翻弄され、命の恵みの起点である川上の地

域が疲弊の度を強めてきているからです。サブプライム問題はその象徴です。お金は本来交換のための道具だったのに、お金を持つこと自体が幸せと勘違いしていないでしょうか。お金に換算されない価値、例えば人との絆、自然からの恵みといったようなことが軽視される傾向です」

「昔は米が豊作の時に得た富で山に木を植え、凶作の時に子孫がその木を伐採して糧を得ました。今とは、投資に対する時間軸が全然違います。野菜を栽培したり、ワインを醸造したりすることも短時間では成果が出ません。しかし、今の金融システムは直接、間接を問わず、短期間で複利でのキャッシュフロー創出をベースにしています。地域金融機関の原型は、相互扶助の仕組みとしての『無尽』などの講でした。小さいながらも社会的に意義のある事業に投資する『マイクロファイナンス』が世界的に広がってきています。これからはかつて共同体の中に持っていた相互信頼の仕組みを活かした新しいローカルファイナンスモデルを作っていくことが大切です」

⑨